

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 2 月 24 日 (2005.2.24)

【公表番号】特表 2004-506414 (P2004-506414A)

【公表日】平成 16 年 3 月 4 日 (2004.3.4)

【年通号数】公開・登録公報 2004-009

【出願番号】特願 2002-505964 (P2002-505964)

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

C 1 2 N 5/10

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 5/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 2 月 28 日 (2003.2.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

単一細胞または細胞組織を、その中に含まれる天然 DNA および / または RNA を、0 を越えない温度において長期に渡って、DNA および / または RNA 増幅に好適な状態に保存するための組み込み媒体であって、実質的に、ヒドロキシプロピル - メチルセルロース (HPMC) の水溶液からなり、所望により浸透圧安定化剤を含むことを特徴とする組み込み媒体。

【請求項 2】

前記 DNA 増幅法がポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を含むことを特徴とする請求項 1 の組み込み媒体。

【請求項 3】

前記 RNA 増幅法が逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 (RT-PCR) を含むことを特徴とする請求項 1 の組み込み媒体。

【請求項 4】

前記長期は 2 ヶ月以上であることを特徴とする請求項 1 の組み込み媒体。

【請求項 5】

前記温度は - 20 以下であることを特徴とする請求項 1 の組み込み媒体。

【請求項 6】

前記浸透圧安定化剤は、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウムの中の 1 個または数個であることを特徴とする請求項 1 の組み込み媒体。

【請求項 7】

前記 HPMC の濃度が 0.1 ないし 5 重量 % であることを特徴とする請求項 1 の組み込み媒体。

【請求項 8】

天然 DNA および / または天然 RNA の増幅法であって、被験者や動物から、または、単一細胞や多数の単一細胞から、天然 DNA および / または天然 RNA を含むサンプルを入手すること、このサンプルに、実質的にヒドロキシプロピル - メチルセルロース (HPMC) の水溶液

からなり、所望により浸透圧安定化剤を含むDNA/RNA保存水溶液を供給すること、  
サンプルとDNA/RNA保存液の混合物を凍結すること、  
前記凍結混合物を0以下の温度で長期に渡って保存すること、  
前記凍結混合物を0を越える温度に上げること、  
灌水または水洗によって前記保存液の全てまたは一部を除去すること、  
所望により、前記サンプルから前記DNA/RNAを分離すること、  
そのDNAおよび/またはRNAを増幅すること、  
を含むことを特徴とする方法。

【請求項9】

DNAはポリメラーゼ連鎖反応(PCR)によって増幅されることを特徴とする請求項8の方法。

【請求項10】

RNAは逆転写ポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)によって増幅されることを特徴とする請求項8の方法。

【請求項11】

実質的にヒドロキシプロピル-メチルセルロース(HPMC)の水溶液からなり、所望により浸透圧安定化剤を含む水溶液中に、0未満の温度で長期に渡って組み込まれた細胞および組織由来のDNAの増幅によって得られたDNA。

【請求項12】

ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)によって増幅された、請求項11のDNA。

【請求項13】

実質的に、水溶性セルロース誘導体および、要すれば添加してもよい浸透圧安定化剤から成る水溶液中に、0未満の温度で長期に渡って組み込まれた細胞および組織由来のRNAの増幅によって得られたDNA。

【請求項14】

逆転写ポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)によって増幅された、請求項13のDNA。